

2026年6月3日

世界最長の航続距離を持つエアバス A350-1000ULR、初飛行に成功

エアバス（本社：仏トゥールーズ、最高経営責任者：ギヨム・フォーリ）は2日（仏トゥールーズ時間）、A350-1000ULR（MSN 707）が、仏トゥールーズで初飛行を成功裏に完了したことを発表しました。初飛行を行ったのは、カンタス航空が発注している12機のうちの初号機です。特別な飛行試験用計測機器を搭載した同機は、3時間43分飛行し、高度41,000フィート超に達しました。操縦はエアバスの飛行試験クルーが担当しました。

A350-1000ULRはカンタス航空向けに開発されている機体で、シドニーとロンドンを結ぶ超長距離を史上初めて直行便で結ぶことが可能になります。飛行距離は約10,000海里、飛行時間は最大22時間におよびます。主に、機体に後部中央タンク（RCT）を追加したことにより、性能がさらに向上し、航続距離を1,000海里延長、世界最長の航続距離を実現しました。

初飛行では機体の全体的な性能チェックと新しい燃料システムの試験を行いました。これから、この改修の認証を得るために2ヶ月間にわたる飛行試験プログラムを実施します。さらに、ギャレーの新しい空気冷却システムの認証も取得する予定です。超長距離飛行に備えて、より軽量で効率的な冷蔵ユニットが設置されています。また、客室内の換気および温度管理機能についても詳細な試験を実施します。

飛行試験プログラムの終了後、同機はカンタス航空の旅客機仕様へと変更される予定です。

2機目のA350-1000ULRは現在最終組み立ての最終段階にあり、近く塗装工場からロールアウトされる見込みです。その後、4クラス制のプレミアム客室と、エンジンの取り付けが行われます。この2機目はカンタス航空への引き渡し初号機として、2027年4月に納入される予定です。

A350-1000ULRは、ベストセラーであるA350ファミリーの中で、A350-900、A350-900ULR、A350-1000に続く4番目の派生型旅客機です。A350ファミリーは燃料消費量と二酸化炭素排出量の大幅な削減、新たな次元の快適性を実現し、長距離の空の旅における新たな基準を打ち立ててきました。

さらに、現在開発中で、今年後半に初飛行が計画されているA350F貨物機も、間もなくファミリーのラインナップに加わる予定です。

2026年4月末時点で、A350ファミリーは68社から計1,579機の受注を獲得しており、700機以上が41社によって、主に世界中の長距離路線で運航されています。

カンタス航空は、オーストラリアから超長距離直行便の未開ルートに就航する計画「プロジェクト・サンライズ」のもと、12機のA350-1000ULRを発注しています。また、将来的な長距離路線での運航に向け、標準型のA350-1000も12機発注しています。

Follow us

If you wish to update your preferences to Airbus Communications, media@airbus.com
If you no longer wish to receive communications from Airbus, media@airbus.com

Newsroom

リリースに関するお問い合わせ先：エアバス・ジャパン株式会社

藤宗宇多子
03-5775-0133
utako.fujiso@airbus.com

野坂孝博
03-5775-0129
takahiro.nosaka@airbus.com

Follow us



If you wish to update your preferences to Airbus Communications, media@airbus.com
If you no longer wish to receive communications from Airbus, media@airbus.com